



数式計算ソフトウェア カルキング 困難とされた数式表記による計算を実現。 日本発、世界のデファクトスタンダードへ

に近づけなければなら
りませんでしたが、
カルキングは「コン
ピュータをできるだ
け人間の思考に近づ
けよう」という観点
から作られていま
す。ですからカルキ
ングを使えば、ユー



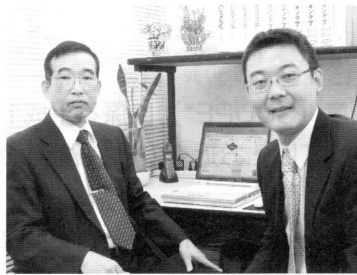
純国産の数式計算ソフト「カルキング」

第二回 株式会社シンプレックス

各地方で活躍中のICTベンチャー企業を取り上げて、その先進的かつ意欲的な事業内容などを紹介する「ICTベンチャー全国十選」前号からのシリーズを引き継いで、装いも新たにその続編をこれから十回にわたり連載していきます。第一回は画期的な数式計算ソフト「カルキング」開発で知られる神奈川県のシンプレックス社です。

株式会社シンプレックスは、平成元年三月、神奈川県津久井郡において、現最高経営責任者の西野秀毅氏を中心に設立されたソフトウェア開発のベンチャー企業である。

西野氏は「数式表記と演算が同時にできる便利なソフトウェア」を開発するため、一九八九年に勤めていた大手IT企業の研究所を退職し、およそ六年の月日をかけて、数式計算ソフトウェア「カルキング」を開発。カルキングは累計販売本数が二〇〇六年に五万本を超えており、これまで情報化月間推進会議議長表彰(平成十七年度)などのさまざまな賞を受賞している。数式計算ソフトウェアを開発



西野秀毅CEO(左)と西野文斎COO(右)父子鷹の絆が「カルキング」開発を生んだ。

した西野秀毅氏と同社の最高執行責任者である西野文斎氏のお二人に、そのベンチャー精神を伺うべく、シンプレックス社を訪ねた。同社はのどかな田園風景に包まれた中にある。

カルキング開発に至る経緯について教えてください。
西野(秀) ●退職金による多少

の蓄えがあったとはいえ、ソフトウェア開発は当初予期していたよりもはるかに複雑で難しく、いつまで経っても先が見えない。そんな状態が三年近くも続きました。ですから「思い描くソフトウェアが開発できなかったらどうしようか」と、背筋が凍り付くような思いを何度も味わいましたね。そんな時はただひたすら仕事に没頭することが唯一、不安から逃れられる方法でした。また「脱サラ」したわけですから、基本的には収入のない生活です。そうした中でも、研究所時代の仲間や友達が資金援助をしてくれた。本当に助かりました。

並々ならぬ苦勞の末に完成したカルキング。製品の強みについて教えてください。

西野(秀) ●大学時代に物理学を専攻していたため、直感的に数式を表記できるソフトウェアを作りたいと思っていました。従来の数式ソフトウェアの場合、人間の思考をコンピュータ

ザーは数学表記のままに瞬時に演算が行えます。今後は他社製品及びプログラム言語との連携を図り、カルキングをより汎用的な計算ソフトウェアとしていきたいですね。

カルキングは、情報化月間推進会議議長表彰で「日本発、世界のデファクトスタンダードを狙えるソフトウェアである」と評されています。海外戦略はありますか。

西野(文) ●平成十六年にシンガポール進出を果たし、現地政府主導の展覧会にカルキングを出展し大変盛況でした。シンガポールでは現地特有の慣習もあり、改めて海外展開の難しさを実感しましたが、得られたものは大きかった。今後はシンガポールで得たノウハウをもとに、米国やアジア諸国などへの普及をめざす予定です。

これまでの経験に基づいて、他のベンチャー企業、あるいは、これから起業しようと考えている起業家のタマゴに対し

て、何かアドバイスなどがあれば一言お願いします。
西野(秀) ●どのような分野でも構わないから「世界初」とか「世界最高のもの」をめざして起業することが何よりも大事であると思います。ナンバーワンをめざせば、たとえ失敗したとしても、その過程で得られるものが必ずあるはずですよ。

西野(文) ●ベンチャー事業は二、三回失敗してからようやく花が咲く。僕はそう思います。始めたばかりは「何も知らない状態」が当たり前です。そこで必死に頑張った時期が、後になつて生きてくるもの。考え過ぎると立ち止まってしまいます。壁にぶつかっても歩みを止めることなく「未来を信じて挑戦を続けること」が大切でしょう。

ありがとうございます。
(取材構成／総務省情報通信政策課・藤井裕子)

【企業情報】
・資本金 二千万円
・売上高 (非公開)
・本社 〒二二〇〇〇二 神奈川県津久井郡城山町若葉台七十五
・ホームページ
<http://www.simplesoft.com/>